

2022年12月8日

内閣総理大臣 岸田文雄様
経済産業大臣 西村康稔様
環境大臣 西村明宏様
原子力規制委員長 山中伸介様

「原発政策の大転換を許すな！全国統一行動」
原発立地若狭からのメッセージを受け、
消費地の宗教者として申入れます

宗教者核燃裁判原告団 東京事務所 大河内秀人

私共、原告団共同代表の一人である、小浜市明通寺・中寫哲演師からの訴えを伝え、消費地に住む一宗教者として申入れします。

電力需給のひっ迫を理由に運転期間を延長し、老朽原発を再稼働させるという方針は、若狭住民としては質（たち）の悪い冗談としか受け取れない、と中寫師は訴えます。

関西圏に電気を供給するために、せいぜい5～6万kwしか必要としない若狭を、世界に類を見ない15基（合計出力1173万kw）という原発密集地にし、さらに老朽原発の再稼働という恐怖を押し付けることは決して容認できません。そしてその原子力政策推進のために、桁違いの危険をもたらす再処理施設を青森の六ヶ所村に押し付け、さらに高レベル廃棄物の最終処分場立地などで地域を分断するという、二重三重に拡大する暴力的な構造を根本的にあらためていくべきです。

経済的利益を優先し、大量消費大量廃棄を差別構造によって支えていく政策は、自由と平等を旨とする民主主義とは大きくかけ離れています。自らの際限なき欲望のために、他国を侵略し、自国民の命も奪った過去を彷彿させます。

私たちにはもっと別の、めざすべき道があります。

今日12月8日は、釈尊が覚りを開いた「成道会（じょうどうえ）」です。

故郷を奪われ、いのちを奪われ、分断と不安の中に生きる福島の人々の苦しみの原因、責任が、10基の原発を押し付けた関東首都圏の我々にあるということに目覚めることを願い、「原発政策の大転換」の再考を申し入れます。

合掌